

道徳科学習指導案

授業者 泉谷量平

学年・学級 4年2組

場所 4年2組

1 主題 「友だちを大切にすることは？」

【B 友情, 信頼】

教材 「絵はがきと切手」

『道徳4 きみがいちばんひかるとき』 光村図書

2 研究テーマと本時の関連

一人一人がよりよい生き方を追求する

道徳授業の在り方

ー葛藤場面における役割(視点)取得能力に着目してー

子どもたちが自由な発想から新たな価値を創造する際には「誰かのため」を思い、相手が何に悩み、何を求めているのかを想像することが大切である。昨年度から道徳部では、「役割(視点)取得能力」を育むための学習活動と発問に着目して研究を進めている。本時では、学習活動として登場人物の気持ちを想像しやすくするために、役割演技を取り入れる。教材を読んで考えるだけでは、料金不足を伝えられる正子の気持ちを想像しにくい子もいるであろう。正子に自我関与し、ひろ子に料金不足を伝えられる場面を演じることで伝えられる側の正子の気持ちや料金不足を伝えることに決めたひろ子の思いを想像しやすくなるのではないかと考えた。また、役割演技を取り入れることで、二人のやり取りを第三者の視点から考えやすくなる。

更に、役割演技後に「ひろ子から料金不足を伝えられた正子はどんな気持ちになっただろう。」や「ひろ子と正子の様子を見て、どのように感じたかな。」といった役割(視点)取得能力を育むための発問をすることで、子どもたちの他者を思いやる気持ちや人間尊重の気持ちが一層、養われることを狙う。

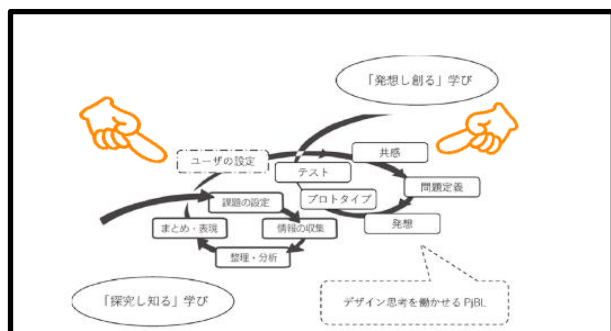


図1「総合的な学習の時間」におけるSTEAM単元の学習モデル(基本構造)

また、道徳科におけるこのような学びを様々な題材を用いて行ったり、道徳科以外の教科や実社会においていかしたりする経験を通して、物事を広い視野から

多面的・多角的に捉えようとする見方・考え方が鍛えられる。この鍛えられた見方・考え方がSTEAM単元のユーザー設定・共感フェーズ(図1)において、いかされると想定している。

3 授業づくりについて

本学級の子どもたちは友だちを大切にし、お互いに助け合って過ごしている。例えば、自分の掃除が早く終わると率先して、他の掃除場所に手伝いにいたり、プリントを使って学習をする際には得意な児童が苦手な児童に寄り添い、学習の手伝いをしたりする姿が見られる。しかし、手伝いたい気持ちや教えたい気持ち先行し、手伝いの必要がない掃除場所に手伝いにいってしまったり、自分のペースで学習に取り組みたい友だちにも学習の手伝いにいってしまったりする姿が見られる。また、友だちにプリントの答案を覗かれても、「自分で考えた方がいいよ。」と声掛けすることができる児童は少ない。このように友だちを大切にすることの意味や意義について深く考えず、自分の思いのままに行動してしまったり、嫌われてしまったらどうしよう自分の思いを相手に伝えられなかったりした経験は誰しもあるのではないだろうか。

そこで、本主題を通して友だちを大切にすることの意味や意義について考え、互いに理解し、信頼し合おうとする道徳的判断力を養いたい。友だちを大切にすることは相手の立場に立って、感情や考えを理解し、思いやることである。また、嫌われてしまったらどうしようと考えてしまう人間の弱さに左右されずに、善し悪しを判断しようとすることも大切である。このような判断力を養うためには、まず自分視点の一方的な思いで助けようとするのが友だちを大切にすることではないという気づきを促す必要がある。また、実感をもって理解することができるように、自分自身の経験や友だちの経験と関連させながら考えることも大切である。このような気づきや実感をともなった理解が、互いに理解し、信頼し合おうとする判断力の高まりに繋がると考える。

今回扱う、「絵はがきと切手」という教材は、転校した友だちの正子から、料金不足の絵はがきがひろ子に届くところから話が展開する。正子に料金不足を伝えるか伝えないかを悩むひろ子の姿を通して、友だちを大切にすることの意味や意義について多面的・多角的に考えることができる話である。

4 本時の展開

(1) ねらい

友だちを大切にすることの意味や意義について考えることを通して、互いに理解し、信頼し合おうとする道徳的判断力を養う。

(2) 本時の展開

学習活動	主な発問と予想される子どもの反応	教師の働きかけ
1 「友だちを大切にすることのイメージを共有し、捉え方の違いに気付かせる。」	○友だちを大切にしていますか。 ・大切にしているよ。優しくしているからね。 ・困っている友だちを助けてあげるよ。 ○先生は「友だちを大切にしていな。」って言われたことがあるんだよね。 ・なぜだろう。 ・友だちを大切にすることってどうすることなのか。	・子どもの友だちを大切にすることの捉えを共有した後に教師が自身の友だちとのエピソードを紹介する。そうすることで、友だちを大切にすることの捉えの違いに気付くことができる。
学習テーマ 友だちを大切にすることってどうすることなのか？		
2 教材文「絵はがきと切手」を読んで、話し合う。	○ひろ子は何を迷っていたのかな。 ・料金不足を伝えるかどうか。 ・伝えない方がお互いにとっていいよね。 ・このままだと正子は同じ失敗をしてしまう。 ○ひろ子はなぜこんなにも悩んでいるのかな。 ・正子にとって伝えた方がいいのか、伝えない方がいいのかわからないからだよ。 ・伝えるのが本当の友だちだと思うよ。 ◎自分だったらどうするのかな。 ・自分なら伝えられないよ。 ・本当にそれでいいのかな。確かに嫌な気持ちになるかもしれないけど、正子さんならわかってくれると思うよ。 ・本当にわかってくれるかな。悲しむかもね。	・母の考えと兄の考えを比較して捉えられるように黒板を整理する。そうすることで、それぞれの立場が大切にしていることが明確になる。 ・生活経験と関連させて考えられるように、子どもの生活経験を補助資料として用いる。
3 役割演技を行い、伝えられる側の正子の気持ちや料金不足を伝えるひろ子の気持ちについて話し合う。	○料金不足を伝えられた正子はどう思うのかな。 ・自分のために言ってくれているって友だちならわかるよね。 ・「ありがとう。」って気持ちになると思うよ。だって、同じ失敗をしなくて済むからね。	・役割演技をすること伝えられる側の正子の気持ちについて想像しやすくする。
4 本時の振り返りをする。	・伝えることが友だちを大切にすることになるね。相手もその方がきつうれしいよ。 ・伝えなかったとしても、相手のことを考えてそう判断したなら友だちを大切にしていると言っていいんじゃないかな。	・多様な考えに触れることができるようにPadletを使って学習を振り返る。

(3) 評価の観点

- ・友だちを大切にすることの意味や意義について自分自身の経験や友達との経験と関連させながら考えることを通して、友だちを大切にすることはどういうことなのかを自分との関わりの中で考えようとしたか。
- ・友だちに言い出しにくいことがある時にどうすればいいのか、自分なりの考えをもち、友だちと対話する中で道徳的な見方・考え方を働かせようとしていたか。